

森里海に学ぶ

大正大と三陸の連帯

- 8 -



竹内 典之さん

●町の77%森林

宮城県南三陸町は、東が志津川湾、伊万里湾に面し、北、西、南の三方は海拔300mに多大な影響を及ぼす。山が

支えてきた。町内の森林域や里域の保全状態が、各河川の

皆伐などの大きな攪乱(かくらん)があった後、大規模あるいは中規模の攪乱がないと、森林は時間の経過とともに、林分成立段階(更新後10

15年ぐらゐまで:林分が閉鎖するまでの草本類などさまざまな植物種が競争しあう段

階)に、若齢段階(50年ぐらゐまで:樹木が林冠を形成して強い段階)、成熟段階(樹冠同士の間に隙間ができて

増大し、成長が極めて旺盛になる。枯れ枝払いや間伐をしないと、林冠下部に枯れ枝・枯れ葉が落ちきららずに残り、太陽光が樹冠をほとんど透過しなくなり、林床は暗く

なり、里域を流れる各河川の荒廃を引き起こし、沿岸域の劣化のもととなっている。

木材産業の発展不可欠

京大名誉教授 竹内 典之

ほとどの低い分水嶺(れい)の山並みによって他市町と画き

沿岸漁業は惨況に陥る。あるが、町域の77%を森林が占める森林の町でもある。

●変化する構造

町内を流れる10本ほどの河川は、町内に降った降水だけを集めて、志津川湾や伊万里湾に直接流れ込み養殖漁業を

高度経済成長期に皆伐された跡地に、天然更新した天然生

植生が豊かな段階、そして老齢段階(それまで優勢であ

冠同士の間に隙間ができて林内は適度に明るくなり、下層

工林は、その多くが若齢段階後半から成熟段階初期の森林

●30年過密状態

つた大径木の中に衰退木、立

遅いのも耐陰性の強いスギ・ヒノキ人工林の特徴である。強く閉鎖して下層植生が乏しい段階)、成熟段階(樹

南三陸町のスギ・ヒノキ人工林は、その多くが若齢段階後半から成熟段階初期の森林

当講師がリー形式で月1回報告します。同大と河北新報社との連携事業の一環です。

訂正 25日「森里海に学ぶ」で、「伊万里湾」は「伊里前湾」の誤りでした。